平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰　被表彰教職員・教職員組織名簿

番号	学校名	氏　名	概　要
1	生駒市立生駒南小学校	金（きむ）　秀勇（すよん）	**学校生活を支える生徒指導　～体づくり・心づくりを通して～** 生徒指導部長として、生徒指導を単なるルールの遵守でなく、体づくり・心づくりによる総合的な人間形成といった視点で捉え、多方面から取組を進めた結果、児童の自己有用感の高まりにつなげることができた。その成果を地域ぐるみの児童生徒健全育成推進協議会の場で紹介することで、保護者等の理解や協力を得ることができ、教職員のさらなる意欲向上にもつながった。 奈良県生徒指導研究大会でも生徒指導の域を越え、体育部会、特活部会とも連携した取組として発表し、高い評価を得た。また、不登校児童の対応について、全児童対象の個人カードの作成、情報交換やケース会議の充実を図り成果を上げている。職員研修を定期的に計画して、専門家の指導を仰ぎながら、職員全体で指導方法を共有するなど、あらゆるケースに学校が組織的に機能する体制を構築し、生徒指導の要として大きな信頼を得ている。
2	宇陀市立榛原小学校	髙木（たかぎ）　範子（のりこ）	**インクルーシブ教育の推進のための特別支援教育体制の充実** 平成２２年４月より１年間、大阪教育大にて研修を受け、平成２３年度から平成２５年度までの３年間は県教委特別支援教育巡回アドバイザーとして、県内各地域の特別支援教育の充実にその能力を発揮した。 平成２６年度に現任校へ復帰し、特別支援教育コーディネーターとして、これまでの経験を生かしてユニバーサルデザインの授業づくりに取り組んだり、特別支援教育の推進に向けて校内教職員への指導助言に尽力した。 平成２７年度より、校内に設置されている通級指導教室「ほほえみ」の指導担当となり、担任と連携しながら通常学級に在籍し支援を必要とする児童の支援や指導を行った。また、宇陀市内では地域の特別支援教育のセンター的役割を果たし、校内の支援体制づくりやインクルーシブ教育の推進に努めるなど幅広く活躍している。
3	橿原市立晩成小学校	吉田（よしだ）　英貴（ひでたか）	**どの子も夢中になる体育学習による体力向上の取組** 子どもたちを取り巻く生活環境の変化に伴い、子どもたちが運動する機会の減少や体力・運動能力の低下が危惧されている中、体育科の授業の中で、どの子も夢中になって様々な運動に触れることができるようになり、運動量が増加して体力向上に直結するような取組を進めてきた。 また、近年急増している校内外の若手教職員に、小学校６年間の系統性を大切にした指導計画に基づく体育科の授業づくりを指導するための取組も進めている。さらに、幼児を対象とした「子どもを夢中にさせる運動遊びプログラム」作成に携わり、運動機能が急速に発達する幼児期・児童期の運動遊びについて研究を進めている。県教育委員会保健体育課体力向上推進コーディネーターや県教育委員会指導委員（体育）を務めるなど、学校外でも積極的な活躍が見られる。
4	橿原市立香具山小学校	米川（よねかわ）　奈緒（なお）	**子どもが生き生きと活躍できる体育学習の推進** 昨年度、県の「体力向上推進コーディネーター」として、週に４日、市内１５校を順に訪問し、若手教員や体育の苦手な教員に対し、指導案の検討や授業の進め方など細やかな支援を行った。授業では、最初はチームティーチングの主担当者（Ｔ１）として授業を行い、指導法の工夫、単元や授業構成の視点を伝え、２回目以降は授業補助者（Ｔ２）として担当教員を支援し、授業の振り返って新しい指導方法を提案するなどサポートを行った。 また、体育主任に対しては、体力テストの意義を伝え、結果の有効活用について理解が進むように適切な支援を行った。放課後のミニ研修や長期休業中の実技研修に参加するなど、各校で体育科への理解が深まることに大きく貢献した。
5	橿原市立真菅小学校	上田（うえだ）　知華（ちか）	**特別支援教育の指導体制の充実** 特別支援学級担任として、児童のもつ特性を日常生活の細かい観察から捉え、児童の自立のために何が必要かをしっかり見極め、より適切な支援が行えるような取組を続けてきた。また、校内特別支援コーディネーターとして、積極的に研修等に参加しながら、特別支援教育推進の中心として活躍している。集団内での行動や発言が苦手な児童等が、きめ細かい指導で少しずつ自信をもつことができるようになり、保護者の信頼を得ている。保護者からの相談窓口または関係機関との連絡窓口として、丁寧に任務を果たし、昨年度は橿原市教育支援委員として委嘱を受け、教育相談委員会にも関わるなど特別支援教育の発展、充実に大きく貢献している。
6	大淀町立大淀緑ヶ丘小学校	河﨑（かわさき）　光美（ひかるみ）	**基礎・基本を徹底することによる新入学児童への適切な指導について** １年生の担任として、細やかな配慮と適切な声掛けをしながら、出来るまでやり直しをさせるなど、基礎・基本を徹底することによる一貫した取組を実践している。学習の基礎となる座り方にはじまり、鉛筆の持ち方、身の回りの整理整頓、片付けの習慣等、身に付いた学習規律や習慣が児童の自信となり、学習意欲の向上につながっている。教科学習では、「作文指導（お魚作文）」において、段落の意味を理解しやすいように作文を魚に見立て、頭（はじめ）・お腹（中）・しっぽ（おわり）で表すなど、随所に工夫を凝らしている。「道徳」の教材研究にも非常に熱心である。 また、毎日の学級通信で児童の様子を伝えながら適切なタイミングで家庭へ連絡を入れることにより、保護者の信頼は絶大である。若手の教員に労をいとわず指導するなど、他の教員からの信頼も厚く、内外から評価が高い。

平成30年度文部科学大臣優秀教職員表彰　被表彰教職員・教職員組織名簿

番号	学校名	氏　名	概　要
7	香芝市立志都美小学校	澤田（さわだ）　善広（よしひろ）	**主体的・対話的な学びを通した体力向上の取組～運動・外遊びの日常化を目指して～** 子どもどうしの関わりや集団の高まりを意識し、主体的・対話的な学びを通して子どもの体力を高めることができるような授業づくりに取り組んだ。主体的な学びが、運動の楽しさや喜びを知ること、自分の課題や体力向上の必要性を理解することにつながり、対話的な学びが、課題解決に向けて助け合ったり教え合ったりしながら仲間と豊かに関わる協働的な活動につながるよう研究を続けてきた。また、「回数・時間・距離・姿勢・方向」などのキーワードをもとに、子どもたちが運動を工夫できるような指導方法に取り組んだ。昨年度、保健体育指導力向上研修（スポーツ庁）を受講し、県小学校教科等研究会体育部会の研究部理事を務めるなど、校外でも活躍している。
8	五條市立牧野小学校	西出（にしで）　晃彰（みつあき）	**カリキュラム･マネジメントを取り入れた学校改善** 教職大学院研修で「カリキュラム･マネジメントの実践的研究」に取り組み、「カリキュラム･マネジメントを取り入た運動会の改善」についての実践を所属校で行った。児童の課題を明らかにするとともに、その克服に向けて児童が自らの手で創り上げる運動会の創造をめざして、プロジェクト型学習を構想し、教職員との協働・切磋琢磨を図りながら感動的な運動会を創り上げた。 その結果、自らの手で創り上げた運動会が自信となって、その後の行事や学習において主体的に活動する姿が見られ、また、学習意欲も向上し、どの学年においても学力診断テストや家庭学習において、その成果が見られた。 本教員はミドルリーダーとして、管理職と教職員のパイプ役となったり、同僚の悩みや思いに耳を傾け、的確なアドバイスを伝えたりするなど、指導力を発揮している。また、昨年度、中央研修（中堅教員）に参加するなど、大いに活躍が期待できる人物である。
9	奈良県立奈良情報商業高等学校	喜多（きた）　純（じゅん）	**地域に愛される学校を目指す生徒会組織の確立について** 本校着任以来、生徒会の指導担当として生徒会活動を牽引してきた。これまで教員主導であった学校行事について、生徒会役員と生徒会各種委員会委員を連携させながら活動の牽引役になる能力を育む場とし、生徒会活動が生徒の主体的な活動になるように指導を重ねてきた。その結果、生徒会活動を軸にして、全校生徒の一人一人が学校行事だけでなく学校生活全般に主体的に取り組もうとする態度と意欲の醸成につなげることができた。 とりわけ、全校生徒が地域住民や小学校児童、企業との協働で取り組む清掃活動「桜井っ子、きれいきれいキャンペーン」や生徒会か中心となって、地域の小学校児童と行う挨拶運動、古代服を身にまとい県民に交通安全を呼びかける啓発運動などの活動は、地元から地域に根ざした学校の取組として高く評価されている。
10	奈良県立青翔中学校	生田（いくた）　依子（よりこ）	**学校設定科目「探究科学」の取組を通じた科学研究と進路指導の一体化とその普及** 平成２６年度の赴任以来、文部科学省指定のＳＳＨ事業の中心的役割を担い、学校設定科目「探究科学」を通して、科学研究と進路指導の一体化を進めてきた。自己の優れた指導方法や研究方法等を他の教員と共有し、教員全体の指導力やモラールの向上を図り、生徒の学会発表及び大学進学につなげてきた。また、京都大学で生徒の研究発表会を開催するなど、大学を含めた他校の教員とも連携し、幅広いネットワークを構築している。平成２８年度には、「第５８次日本南極地域観測隊」に教員派遣で参加し、生徒が考案した「南極の微生物発電と昭和基地内外の微生物数調査」をテーマに昭和基地から「南極授業」を行うなど、自ら学び続ける姿勢は生徒のみならず、他の教員の模範となっている。
11	奈良県立大淀養護学校	平井（ひらい）　文章（ふみあき）	**キャリア教育の視点を取り入れた授業づくり** 平成24年度より、進路指導部長として、高等部において卒業後に活きる力を付けさせるための授業の在り方を提案し、教科「流通・サービス」の選択授業の一つ「メンテナンス」の授業チーフとして、キャリア教育の視点を大切にした授業づくりに取り組んだ。地域や校内の整備・清掃などを学習題材として、知識や技能の習得だけでなく、活動の意味付けや価値付けをしっかり行えるような体験型学習のモデルを構築してきた。 本教員の取組により、地域の依頼先への挨拶や納品・報告、作業内容や納期の相談など、地域との関わりが増え、生徒同士の協働による主体的な活動が引き出されている。また、高等部だけでなく全ての学部にキャリア教育の視点が必要との認識が校内で定着し、卒業後の生活を見据えた系統性のある授業や学部間連携を模索する動きへと発展し、大きな成果を上げている。